すべての女性が輝く明日のために

# JAUW会報

第265号
2018年11月

一般社団法人
大学女性協会

JAPANESE ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

## 特集　全国公開シンポジウム

企画委員長あいさつ・プログラム…… 2
基調講演・パネリスト紹介…… 3
GWI 総会と100周年記念大会のお知らせ …… 4〜5
「ランプの灯を絶やさぬために」　鷲見会長…… 5
「HP の活用に感激」・新装「Jカフェ」紹介　… 6
国内奨学生による発表・70周年記念募金報告… 7
ヒューマン・ストーリー第5回「加藤恭子さん」… 8
支部の70年を記念して　茨城・新潟 …… 9
新春のつどい・各委員会からのお知らせ…… 10
新入会員・理事会から

2018年度　JAUW 公開シンポジウム

# 教育・ジェンダー・共生

## ―誰ひとり取り残さない共生社会を創るために―

日時：2018年10月27日（土）　13：30～17：00

会場：日本女子大学　教育文化振興桜楓会　桜楓2号館

## ご挨拶

企画委員長　**加納　孝代**

本日は大学女性協会の公開シンポジウム「教育・ジェンダー・共生 ― 誰ひとり取り残さない共生社会を創るために ― 」にお出でくださいましてありがとうございます。

今年のシンポジウムの内容を春から話し合ってきた際、現在、日本で暮らしておられる「外国の人たち」について掘り下げてみることによって、誰とでも平和に暮らすための努力を具体的に考えてみようとの方針を定めました。

テーマにある「共生」とは、いまや家族、親戚、幼稚園・保育園、学校など私たちの身の回りの比較的小さなコミュニティでも、地方自治体という社会、あるいは全世界、地球全体という考えられうる最大規模の場でも、その実現が問われている問題です。

「戦争」や「紛争」の反対語として、私たちは「平和」という言葉をイメージしますが、一見、抽象的に思われる「平和」を具体的にしたものが「共生」であると言えるのではないでしょうか。抽象的な発想は大事であり、私たちは常に理念や理想など抽象的な問いを論ずるべきではありますが、同時に、常にその具体的な姿を意識しておくことも忘れてはなりません。車の両輪と思えばよいでしょう。そして、「国際的な恒久の平和」という、一見遠いところにありそうに見えるものも実は、ごく身の回りの人との「共生」とつながっている、と考えるべきではないでしょうか。

そうした背景からこのシンポジウムが実現しました。本日は津田塾大学髙橋裕子学長に「高等教育界における男女共同参画の現状 ―『男女共学』は真に達成されたか ―」と題して基調講演をお願いいたします。先生には日本の女性研究者が男性研究者と「共生」「共学」できているかを語っていただきます。

続くパネルディスカッションには、多様な領域でご活躍中の4名の方に来ていただきました。うち2名は会員です。それぞれすでに多様な背景をもつ人々との共生体験をしておいでのこの方々には、「共生社会とはどのようなものだとお考えになりますか」という質問を投げかけ、お答えを本日のプログラムに記載させていただきました。そこからも、さらにこれから直接伺うお話からも、私たちへの多くの刺激と、課題に取り組むための大きなエネルギーが与えられるものと思っております。

パネリストの皆さま、髙橋先生、そしてフロアにおられる皆様方、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

### プ　ロ　グ　ラ　ム

総合司会　副会長　牧島悠美子

**＜第一部＞　基調講演**

13：30～　開会挨拶　鷲見八重子会長

13：40～　基調講演　髙橋裕子氏（津田塾大学学長）

**＜第二部＞　パネルディスカッション**

コーディネーター　企画委員長　加納孝代

14：30～　パネリスト発題

山下いづみ会員、川崎直子会員

荒川朋子氏、石川えり氏

15：40～　コメントおよびディスカッション

コメンテーター　髙橋裕子氏

16：40　閉会

17：30～19：00　懇親会

パソコン文字通訳者の会 ubiquitous（ユビキタス）の方々が発言者のことばを聞き取り、即座に字幕入力。それが右側のスクリーンに投影され、発言を読むことができた。

※聴覚障がい者の方のための初の試みでした

## 基調講演　津田塾大学　学長　髙橋裕子氏

### 高等教育界における男女共同参画の現状
—「男女共学」は真に達成されたか—

今日私はこのタイトルでお話しさせていただきます。私は教育とジェンダーを研究の対象としております。このシンポジウムでは共生という言葉が一つのテーマです。そこで共生の一つのキーワード「男女共学」の実態をご覧いただきたいと思います。ともに教室に入って学べるようになったということを私たちは「男女共学」がスタートしたといいますが、高等教育界で女性が知の生産と大学での教える役割で男性と対等になっているか、リーダーシップの場に女性が加わっているかを振り返ってみたいと思います。

政府は2020年までに指導的地位に女性が占める割合を3割にと言っていますが、男女共同参画白書に各界の女性割合の推移のグラフがでているのでみてください。40年間で女性医師は1割から2割に増えただけです。また、民間企業の役員は3.7%。社外取締役というかたちで一人の女性が何社も兼任しており、生え抜きの女性リーダーを育てるトラックが十分とは言えません。国立大学から女性の学長が誕生したのはいつかご存知ですか。1997年奈良女子大学でした。お茶の水女子大学は2001年です。19世紀の末にできた学校が女性のトップを21世紀になるまで輩出できませんでした。

よくご存じの通り、日本の男女格差順位（ジェンダーギャップ指数）は2017年144カ国中114位になりました。女性たちも男性たちもあまりに慣れてしまって、これがおかしいという感覚を持てず世界の変化についていけていない。そういう低迷した状態にいることを認識する必要があると思います。高等教育界では女性教員総数は4分の1にも達しておらず、女性研究者の割合は日本では15.7%と世界と比べて著しく低いというのが現状です。ただ待っていたのでは女性リーダーシップの割合は増えていきません。21世紀の半ばに向かって、女性が高等教育の分野で女性自身が持っているポテンシャルを発揮できるように、私たちも力を合わせていきたいと思います。

## パネリスト紹介

**荒川　朋子**氏 アジア学院（農村指導者養成専門学校）校長

人種、文化の違いを尊重しつつ、農村指導者を育成するための研修を行うアジア学院。毎年20前後の国々からやってくる研修生の仲間と、自給自足の共同生活を行いながら、あるべき社会の姿や生き方を共に模索しています。

**石川　えり**氏　認定NPO法人難民支援協会代表理事

1994年のルワンダ内戦に衝撃を受けて難民問題に関心を持ち、大学在学中「難民支援協会」立ち上げに関わり、2001年からこの協会に入職。難民の人々により良い支援をすること、ともに生きる社会を創ってゆくことを目指しています。

**川崎　直子**会員 愛知支部、愛知産業大学短期大学准教授

専門は第2言語習得研究と日本語教育。社会活動として、2005年から愛知県西部で外国人児童生徒の日本語指導、就学前教育と外国人保護者の支援を行っています。最近は外国人の子どもの発達障害に関心を持っています。

**山下いづみ**会員　静岡支部、静岡県富士市議会議員

富士市国際交流ラウンジ運営協議会の副会長として外国にルーツのある子どもと親の支援事業に関わり、市議として政策提言を行っています。富士市を外国人が観光に訪れ、さらには移り住みたくなるような町にしようと活動しています。

※報告書は例年通り年度内に作成します。会員外の方には実費と送料負担でお頒けしますので、事務所までお問い合わせください。

## GWI ジュネーヴ総会と100周年記念大会

CIR 担当理事　鈴木 千鶴子

大学女性協会：JAUW が誕生したのは、第二次世界大戦後間もない1946年であったことは、一昨年創立70周年記念祝賀会を行ったことで記憶に新しい。一方、JAUW が1954年から加盟している国際大学女性連盟：GWI（旧称：IFUW）は、第一次世界大戦終結直後にイギリス、カナダ、アメリカの大卒女性たちが戦争の惨禍を二度と繰り返したくないとの強い思いを共有したことを基に、1919年に誕生した。そこで、来年2019年に誕生から一世紀の節目を迎える GWI は、“Peace through Education”「平和は教育から」あるいは「教育を通して平和を」をテーマに、3年に一度、33回目となる総会と100周年記念大会を、本部のあるジュネーヴで7月25日～28日、盛大に開催することを2018年6月に正式に発表した。

Geeta 会長はじめ関係者は、GWI の次の100年を見据えたヴィジョンの作成と体制の強化策を練ることに、さらに一年以上前から総力をあげて取り組んでいる。JAUW は、世界60ヶ国ほどからの加盟団体の一つとして、歴代の会長には故高野フミ氏と青木怜子氏が、また諸委員会委員に中村道子氏、房野桂氏および田中正子氏が、就任し、共に GWI の活動と発展に尽力してきた揺るぎない実績を誇っている。JAUWのそれらの経験を思い起こし、鷲見会長はじめ理事会は、ジュネーヴでの来夏の総会・記念大会が特別に意義あるものとなることを期し、次々に発表される以下の諸行事に全面的な協力姿勢を表明している。

(1) 100周年記念ロゴは、一般公募によるコンテストでの選考を経て2018年4月に、フィジー大学女性協会副会長がデザインしたものに決定し、以来折に触れて使用されている（参照：GWI アップデートニュース4月18日号）。本来のロゴのランプの焔を飛翔の意味を込めて鳥の翼を模したものとし、併せて教育の象徴である本を開いた形になっている。ランプ本体には、多様な女性たちの横顔が GWI カラーの3色で描きこまれている。〈下図〉

(2) 100周年記念ソングは、11月30日応募締切で、コンテストにて決定する。

(3) 100年前の創立者の一人で初代会長の Caroline Spurgeonのお名前を冠した特別奨学金が、GWI の使命・目的・方針に係わる研究・調査・研修テーマに取り組む博士研究者一名に、選考結果に基づき総会において表彰・授与される。募集締切は2018年12月1日。

(4) 各 NFA（加盟各国の協会）から卓越した会員を2名以内（内1名は故人も含め、歴史上IFUW/GWIの発展に尽くされた方）を推薦し、決定後は100周年となる2019年一年間、人物についてデジタル情報を公開する。氏名と推薦理由の申し出締切は11月1日、公開情報の提出締切は、3月1日。

(5) 会期中の7月27日は、一般参加のカンファランスとなり、学際的セミナーでの口頭発表とポスター発表、ならびに各 NFA から提出・開催のワークショップが繰り広げられる予定で、現在それぞれ10月31日ならびに1月11日を締切日として募集中である。

(6) 総会で審議決定される10項目余りの決議文については、今回のテーマ「平和と教育」に焦点を当てた案文の提出を全 NFA に呼びかけており、2月2日締切。

(7) 同じく総会で審議･決定する次期3年間の会長を含めた理事と委員会委員の役員候補を選出するにあたり、先だって選考委員会を組織することが、前回のケープタウンでの総会で決まっていた。それに従い、先ず選考委員を推薦するよう各国 NFA は促された。締切の9月7日までに JAUW から穐田信子会員を推薦した結果、10月5日付で選考委員6名の一人として任命されたことが公表された。体制の立て直しを図る GWI の今後を担う役員選考準備に、日本（JAUW）から参画できることは、大きな貢献を果たすことになり、100周年に喜ばしい足跡を記した。

このように第33回総会と100周年記念大会のテーマに「平和」を掲げ、GWI本部関係者はもとより、我々各国のNFA会員も、盛り沢山の行事の準備に、勤しみ暮れる中、折しも2018年のノーベル平和賞は戦争下での女性の人権侵害、特に性暴力と闘う男女二人に授与された。あらためて、女性の被害を見過ごさず救済に献身する男性と、受けた被害を訴える“勇気を持つ女性”を、育み輩出することが平和構築に欠かせないことを確認し、2019年7月の総会と100周年記念大会に向けて期待が膨らむ。

GWI は前回のケープタウン総会以降、財政再建のために事務局職員を大幅に削減することを余儀なくされ、普段の業務も手一杯のことと想像される。そのような厳しい状況の中で、参加申込の早期登録も開始された。JAUWでは4日間の会期参加の後スイス観光のハイライトを周遊するツアーの企画も鋭意進めている。私たち会員一人一人も主催者ならびに関係者の労に理解と協力を惜しまず、このまさに100年に一度の特別な機会を成功に導きたい。

# 第33回 GWI ジュネーヴ総会・100周年記念大会へのお誘い

参加ご希望の会員の皆さまに便利な宿泊、航空券、スイス観光のハイライトをセットにしたツアー4パターンを設定しました。

企画主催（一社）大学女性協会
旅行企画主催実施 JTB
＊ JTB によるツアーに関しての詳細は同封のパンフレットでご確認ください。

●GWIジュネーヴ総会は7月25日から7月28日の4日間です。参加登録と登録料の支払いは各自で GWI のサイトからお願いします。
●登録等のお問合わせはメールまたはファクスで JAUW 事務所まで
●基本ツアー日程（成田発着）コースは地図参照
7月24日（水）～8月3日（金）11日間
●ツアーに関するお問合せは
☎03-5909-8012　JTB 杉本まで
（平日9：30～17：00）

①基本ツアー代金（7/24～8/3の全行程参加）¥632,000
②ジュネーヴ宿泊とツアー参加（航空券なし）¥412,000
③ツアー参加のみ（7/29～8/2、航空券なし）¥297,000
④ジュネーヴ宿泊＋航空券（7/24～7/29）¥377,000
①④は別途下記実費がかかります。
燃油サーチャージ／空港諸税 ¥41,980
（変動する可能性があります。）

●100周年記念大会参加登録料は495スイスフラン、約56,000円：25日のレセプションパーティーおよび会期中のランチを含む。
（ただし2019年2月28日までの早期登録期間内の料金）
●7月27日のレマン湖クルージング･ディナー「スイスの夕べ」（お一人100スイスフラン＝約11,300円）は先着300名で登録と同時に申し込む形式になっています。
特に「スイスの夕べ」をご希望の場合はお早めに。

●参加登録は各自で GWI ウェブサイトより
https://graduate-women-international.events.idloom.com/Centenary
①REGISTER をクリック、
②氏名、住所、連絡先、メールアドレス、等を入力、
③スイスの夕べをオプションで選択、合計金額が表示され、支払い方法により、クレジットカード情報を入力。
同伴者の方も参加イベントごとに選択可能です。

## ランプの灯を絶やさぬために

会長　鷲見 八重子

創立70周年記念募金は早いもので丸2年が経過しました。この間じつに延400名を超える方々からご寄付をいただき、総額は600万円を超えました。中にはお願い状を出すたびに何回も応じてくださる方も多々あり感謝はつきません。皆さま、本当にありがとうございます。

この募金の趣旨は、一般社団法人として自立した事業を展開するときの資金づくりにあります。現在は、国の法人改革のもと、内閣府に届け出た公益目的支出計画に従って4つの継続事業を行っております。それがやがて10年足らずで終了し、JAUW は新しい局面を迎えることになります。

支部の中にはすでに移行が終わり、旧財政から自由に新しい活動を始めている支部があり、その数がしだいに増えてきました。本部の場合は、活動の拠点である事務所の維持・管理をいかにするかという、ある意味、持てるものの悩みを抱えております。

さて、どの支部も高齢化による厳しい財政状況にあることを承知の上で、このようなことを申し上げることをお許しください。70周年記念募金は、2019年3月末日までに1,000万円の目標を掲げました。あと4か月ですが、おそらくそれまでに目標額に達するのは困難と予想され、できればクリスマス、そして新年を迎えるにあたり、会員の皆さまに改めてご寄付をお願いする次第でございます。

大学女性協会は、1946年の創立以来、会員の会費と折々の寄付により活動を持続してきました。敗戦直後の焼け跡から、女性の高等教育の促進と、女性の地位向上という高い志を掲げ、世界の女性たちと歩調を合わせて活動してきました。このランプの灯を絶やさず次世代へ渡せますよう、ここで今一度、皆さまのご支援をお願い申し上げます。

ご寄付の方法には郵便払込／振替と銀行口座振込の次の3通りがございます
●郵便払込／振替　００１３０－０－５８７７０１
加入者名：一般社団法人 大学女性協会
●ゆうちょ銀行　店名 〇一九（ゼロイチキュウ）
店番 ０１９　当座 ０５８７７０１
口座名称／加入者名：一般社団法人 大学女性協会
●三菱 UFJ 銀行 四谷三丁目支店（普）３９１８２９８
口座名義：一般社団法人 大学女性協会 理事 鷲見八重子

## HPのアーカイブ活用の連絡に感激しました！！

HP運営担当　**梅田和子**

9月6日HPのお問い合せフォームからカリフォルニア州立大学ロングビーチ校歴史学部竹内みちこ准教授からのメールが届きました。

「現在、藤田たき先生とルル・ホームズ教授についての調査をしています。特に、このお二人の女性労働問題についての考えを調べております。JAUW会報のバックナンバーをインターネットで公開していただき、研究者として、大変ありがたく、感謝しております。」という内容でした。

海外でJAUWの会報をHPからご覧いただき、活用されているとの連絡に担当一同驚きと共に嬉しく思いました。

ただホームズ教授の記事が掲載されている1967年10月発行の68号の3,4ページ目が抜けているとのことでした。

事務所に保管の会報にもそのページがなく、鷲見会長より、中村道子元会長にお尋ねしていただきました。

何と、51年前の会報をお持ちで、早速事務所へ郵送していただき、原本を寄付してくださいました。

直ぐに竹内さんへメールにPdfを添付して送りました。

「大変貴重な資料を送っていただき、ありがとうございます。とても興味深く拝見いたしました。ホームズ教授と様々な人々や団体との関係性がわかり勉強になりました。素晴らしい歴史的な資料を本当にありがとうございました。中村道子元会長にも、私の感謝の気持ちをお伝えしてくださると、嬉しいです。何かこちらにもできることがございましたら、いつでもご連絡ください。ロサンゼルスにいらっしゃる時は、ぜひご一報を。沢山の感謝を込めて」とお礼のメールをいただき、その後のやり取りで、来年6月中旬に一時帰国されるとのこと、その折彼女の研究のお話を伺うことにいたしました。

アーカイブはJAUWの財産です。更に内外の研究者に活用していただけるように充実を図る予定です。加えて、会員のみなさまに親しんで頂けるように見直しを行います。

毎月一回のHP更新の際には委員会・支部のみなさまのご協力をいただき、感謝いたします。

みなさまと共に有意義なHPにしていきたいと思います。

**●「アーカイブ」の開き方**

HPの表紙（左）の左側「Rakuten」の上の「アーカイブ」をクリック。

ページが開いたらページ右上のアイコン「会報バックナンバー」をクリック。

懐かしい記事を楽しんでください。

## 新装『Jカフェ』紹介と第一回「中国あれこれ」報告
### ～JAUWヒューマンリソース活用プログラム～

生涯学習委員長　**嶋田君枝**

「JAUWが誇る最大のタカラは、会員のもてるチカラです。ここには、豊かな経験、広い知識、深い洞察があります。ご一緒に、新しい世界を発見、創出、共有しませんか。」

これは、生涯学習委員会が（旧）新規事業委員会から引き継いだ事業『Jカフェ』の新しいキャッチコピーです。

JAUW会員の方がたの多様性（社会での活躍分野、年代、専攻分野別の科学的分析力、地域性…）は、驚くばかりです。それをそっとしておくのはもったいなさすぎます。いろいろな分野の楽しいお話や肩のこらないお話をしていただいて、みんなで新しい目を養おう、というコンセプトで再スタート致しました。

会員のみなさまのご協力をいただいて、Jカフェが長く続いていくことを期待しております。

第一回（2018年9月19日）は、江原孔江会員に「中国あれこれ」と題し、中国の大連、北京、上海で長年生活された経験から、多文化コミュニケーションのポイント、肌で感じた生活実感などをお話いただきました。

はじめに全員に渡されたミニテスト（中国の国土面積は日本の何倍？中国で人口の一番多い都市はどこ？など全7問）は、自分たちの持っている中国情報のあやふやさをまず思い知らされました。

夫君の赴任に同行なさり、現地で習いはじめ、初めてお買物で使った中国語の話、現地の人たちとのやりとりからわかった人間関係の日本とのギャップ感などの悪戦苦闘の日々をユーモアたっぷりに話し始められました。

日本では、なかなか聞く機会のない中国でのテーブルマナーの実態や、土産文化に象徴される真底のやり取りなど、メディア報道だけでは、理解しえない内容も大変わかりやすくお話いただきました。

「心情としてずっと欧米を向いていたけれど、これからは中国にも向き合わなくては」「近くて遠い国だった中国を身近に感じました」という参加者の声も頂いています。

江原講師のお話は、大好評に終わりました。感謝致します。乞う！ご期待！！第二弾！！！

※Jカフェ第2回「中国あれこれ（続）～中国の女性たちを中心に～」2018年12月19日（水）13：30～　事務所にて

## 2018年度社会福祉委員会・東京支部共催講演会
## 「黄春明が描いた台湾社会と女性たち」

報告者　社会福祉委員長　**桑折美子**

講師：木下佳奈さん

昨年度、社会福祉奨学生から初めてホームズ奨学生に選ばれた木下佳奈さん（東京外国語大学大学院後期博士課程言語文化専攻）を講師に迎え、研究の一端である台湾現代文学作家黄春明（ホワンチュンミン）が描く女性像について講演していただいた。

不遇な境遇に置かれながらも、人との繋がりによって何とか希望を見出し生き抜こうとする若い女性の姿を描く『看海的日子（海を見つめる日）（1967年）』と『小寡婦（若い寡婦）（1975年）』の2作品の比較分析から、それぞれの背景に横たわる台湾の社会情勢や過酷な歴史が見えてきて、文学の力に思わず引き込まれ心を動かされた。

台湾への短期留学や日本語学習支援ボランティアの経験が研究の土台になったという木下さんの迫力ある若い感性、深い洞察力、また車椅子生活という困難を抱えながらも周囲を変えていくしなやかな力強さに、繋がる未来を期待したい。

（9月18日、津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス会議室で開催）

## 奨学生のお話を聴く会（神奈川支部）

神奈川支部長　**丸山若重**

国内奨学生の研究のお話を聴く会を以前から続けており、7月8日には東京工業大の鏡味沙耶さん、9月2日は筑波大の得居千照さんに、それぞれ専門分野の講義をして頂いた。

鏡味さんの研究

2016年度奨学生の鏡味さんは今年の新春のつどいで南極越冬隊員の鈴木裕子さん（2015年度奨学生）と交信してくれた方で、専攻は理学部地球惑星科学。フィールドワークで採取したり人工衛星が持ち帰ったりした岩石を薬品で溶かし、成分を精密機器で分析する。作業は地道だが、太陽系の成り立ちを知るという目的の壮大な研究で、東工大には女性研究者も多い。

哲学対話の風景・得居さん（右端）

一方、2017年度奨学生の得居さんの専門は哲学。既に学校や地域活動で実践経験を積んでいる。この日の講義は「学校教育における哲学対話の理論と方法」。参加者は聴くだけでなく、初めての哲学対話を体験できた。哲学対話とは「身分や性別、年代などを問うことなく、すべての人が平等に、対話を通して考えを深めていく教育実践」との事。飛び入り参加した我が息子も大人と一緒の哲学対話を楽しんだ。どちらの会も参加者は10名以下と少なかったが、興味深い最新の研究に惹かれ、質問や意見のたえない活発な会合だった。

## 募金委員会報告（その６）

（一社）大学女性協会創立70周年記念募金寄付者ご芳名

（敬称略・支部別、五十音順）　2018.6.1～10.31

（**仙台支部**）愛知絢子、赤松千鶴　（**新潟支部**）小林妙子、佐藤ミワ、田代信子、田中和子、宮山彌生　（**茨城支部**）吉田英子　（**栃木支部**）上野和子　（**長野支部**）徳田節子、三田コト　（**東京支部**）伊藤眞理子、植松ちどり、大島杏子、柏木京子、桑折美子、佐々木澄子、庄司ヨシ、鈴川佳子、中村道子、西立野園子、端本和子、日髙絹子、藤谷文子、松村美枝子、松本佳子、村木晴子、百束礼子、山下泰子、吉村光代　（**神奈川支部**）鷲見八重子　（**静岡支部**）尾上契子、御宿節子（**愛知支部**）林　恭子　（**金沢支部**）柴野南津　（**福井支部**）髙橋博子　（**京都支部**）田中ひな子、中島伸江、松尾景子（**奈良支部**）久留島涼子、児島捷子、津田直子、中道貞子、橋本慶子　（**大阪支部**）北村芙佐子、下川勢津子、下川淑子（**神戸支部**）後藤安子、東條喜代子　（**岡山支部**）大岸一代、岡﨑優子、真邉和美　（**熊本支部**）大堂喜三子　（**福岡支部**）西原そめ子　（**長崎支部**）一瀬まり子、加納孝代、河村紀美子、鈴木千鶴子、辻　佳子、平野啓子　（**賛助会員**）高橋正信

上記期間中ご寄付をいただいた延べ人数は62名、寄付金額は772,000円でした。2016年11月の募金開始からは寄付者延べ人数450名、寄付総額6,471,500円に達しました。感謝とともにご報告申し上げます。今後ともよろしくご協力のほどお願いいたします。

## ヒューマン・ストーリー　第５回　　元副会長　加藤　恭子

私は加藤さんと特に何かご一緒したわけではありませんが、時々、加藤さんにお会いしたいなぁと思います。お会いすると、「あのねぇえ、実はね」と、いつも楽しい話をしてくださいます。「去年米寿になったのよ」とおっしゃりながら、パソコンを駆使して、新しいことを見つけては、楽しんでいらっしゃるご様子です。この1年間は、俳画と俳句とエッセイを合わせた『米寿のあそび』の出版に向けて頑張られ、この1冊を手にした者みんなを、ほわっとあたたかくしてくださいました。近年加藤さんと特に仲の良かったあの方この方が急逝され本当にお淋しそうでしたが、ご自分のお怪我やご病気も克服され、行事でもまたお目にかかれるようになり、ほっとしました。 いつまでも会の真ん中に座っていていただきたい方です。

元副会長　坂上 栄美子

### 加藤恭子さんをお訪ねして（広報委員会）

**● JAUW 入会の時期と、きっかけをお話しください。**

入会したのは1980年です。その年に丸山庸子さんが東京支部の支部長になられました。私と丸山さん、そして島美喜子さんの3人はお茶大化学科の同窓生でした。そのご縁で、お手伝いをということで入会したのです。入会して4年間は東京支部委員として活動いたしました。後半の2年間は支部の会計を担当いたしました。その後、その当時の財務委員長、そして本部の会計も担当なさっていた片山秀子さんのご推薦を受け、1984年財務委員長を引き受けさせていただくこととなりました。

**●その当時の主な活動はどのようなものですか。**

1つ目としては、三越劇場の観劇があります。年10回公演の1年分のチケットを購入していただき、開演中自由に行っていただくというかたちでした。皆様に楽しんでいただきましたが、数年後、だんだんと参加者が減り廃止となりました。2つ目は寄付金の募集です。この事業も徐々に予算を満たすことが難しくなり、終わりとなりました。また、前年からの企画を引き継ぎバス旅行も継続しておりました。博物館、美術館、植物園など巡りました。皆様の好評を得、五十嵐康子さんが財務委員長を引き継いでくださってからも続いていました。バザーでは初めての試みとして会員より供出品を募り、嵐山のセミナーでミニバザーを行いました。

また研修旅行として海外へも行きました。1985年、25名の参加者を得、10日間の中国旅行で北京・西安・上海を訪れました。中国の婦女連合会を訪問し、その当時の女性の生活と環境などについて話し合いを持ちました。

次の事業としては、「新春のつどい」があります。楽しいことをしましょうという会員の声もあり、1986年度の行事として1月24日ホテルパシフィックにて第1回「新春のつどい」を開きました。全国から多数の支部会員も参加なさり、昼食、会員による独唱も皆様に喜んでいただけました。その後国内奨学金贈呈式と合同し、現在に至っております。

**●財務委員会の活動以外でご尽力なさったことは。**

「留学生と日本文化を学ぶ会」（現・文化交流委員会）を田中正子さんが立ち上げられ、その活動をお手伝いいたしました。当時は委員会活動としてではなく、会の賛同者から1000円を負担していただき、歌舞伎、能、御苑、相撲部屋、俳句、着物を着る、などなど開催し、いろいろな国の方との交流を図りました。

また1997年には、故守田純子氏からご遺贈いただいた資金を元に1998年守田科学奨励賞選考委員会ができ、当時私は副会長でしたので、準備段階から加わりました。1999年には新しく科学研究奨励委員会ができ、島美喜子さんが初代委員長になりました。

そして1995年の横浜国際会議の際、募金委員長を務めたことは忘れられないことです。1992年に LAC（Local Arrangement Committee）と呼ばれた準備委員会ができ、房野桂さんが準備委員長、五十嵐康子さんが財務委員長、そして私の3人で文部省（当時）、大蔵省（当時）、新宿区役所、横浜・川崎市役所、税務署、県庁などを訪問し、ようやく指定寄付の許可をいただき1年間の募金活動が始まりました。1994年10月より種々の協会、連盟、工業会、その他一般企業を訪問し、国と地方自治体の補助金も得て1億2千万円の寄付を達成することができました。この資金を元にヤングメンバーを支援し、IFUW平和学研究奨学金へ350万円の寄付ができ、国際会議の費用の残金は本部会計に入れ、現四谷事務所への移転の一助となりました。

**●社会教育功労者として表彰されていらっしゃいますね。**

はい。2009年文部科学省より「社会教育功労者賞」を受賞しました。この会に入り、恵まれましたのは、同窓生のみならず、色々な大学や、様々なキャラクターのお友だちを得られたことです。刺激を受け視野が広がりました。またIFUW総会に参加することで海外に行く機会が増えたことも嬉しいことでした。

**●これからの大学女性協会に望まれることは。**

事業委員会の企画は、参加者がいて初めて成り立つものなのです。会員減少もありますが、できるだけ多くの会員の皆様に参加していただき、この会を支えていただきたいと願っています。

―― プロフィール ――

1929　東京で出生
1946　東京都立桜町高等女学校　卒業
1950　東京女子高等師範学校　理科　化学選修　（現　お茶の水女子大学理学部化学科）卒業
1950～1960　都立明正高等学校　教諭
1980　JAUW 入会、東京支部委員
1984～1987　財務委員長
1992～1995　IFUW 横浜総会準備委員会（LAC）募金委員長
1994～1995　役員選考委員会委員長
1998～2001　副会長
2008～2011　監事
2009　文部科学省「社会教育功労者賞」受賞
現在　文化交流委員会・文化事業委員会の委員
生涯　世田谷暮らし

## 茨城支部結成70周年記念事業を終えて

茨城支部長　加藤光子

今年3月4日、支部結成70周年の記念式典、記念事業を水戸市芸術館会議場で開催しました。来賓として小野寺茨城県副知事、高橋水戸市長をお迎えし本部から鷲見会長もお祝に駆けつけて頂きました。大先輩の保田禮子さん吉田英子さんのお二人には、長年の功績を称え感謝状と花束を贈呈させて頂きました。また、何よりも念願の支部著の本を発刊して記念事業が開催できたことは、役員一同の大きな喜びでした。

記念行事では、講師としてNHK水戸放送局の森花子アナウンサー、博報堂ディレクターの船木成則氏を迎えました。森アナウンサーには事前に支部著の本『YOROIを脱いで・・・』を贈り読後感想も交え講話をお願いしました。彼女のタイトルは本の題名を取り入れ『YOROIを脱いでわがままに自分らしく生きる』でした。NHKに入局間もなく結婚され、2年目には産休･育休を取得されたという経歴の持ち主です。女子アナでは前例がなく拒否反応も多い中、仕事を辞める覚悟をした彼女の背中を押してくれたのは上司だった女性副部長。「新しい女性アナウンサーのモデルケースとして精一杯輝きなさい」と激励してくれたそうです。また、東日本大震災の際には恐怖で震えている1歳の我が子に後ろ髪を引かれる彼女に「孫の命は私が守るからあなたは皆さんの命を守る仕事に専念して」と叱咤激励してくれたのは義母の後押しだったとのこと。家族の絆や支えがあり、機動力あるママアナとして奮闘してこられた体験を語ってもらいました。

続いて、博報堂ディレクターの船木氏との対談になりました。支部には2011年にデートDV問題で関わって頂いた船木氏です。森さんの体験談の感想も交え『人は物語を生きる動物だ』として、ワークとライフを天秤にかけるのではなく、生きるというライフの中に《ワーク・働く》とはどういう意味があるか議論すべきと指摘されました。今の子どもたちは2人に1人が107歳まで生きるという時代を迎えており、今や我が国で一色のお金や学力という外からの物差しではなく、自分の中に中心軸の物差しを持ち、真剣に生きる大人が次世代へのメッセージを手渡していくことが重要だと結ばれました。

## 新潟支部創立70周年を迎えて

新潟支部長　髙橋令子

2017年に70周年を迎えた新潟支部は、同年7月22日（土）に記念講演会を開催し、翌年2018年5月に70周年記念誌を発行しました。70年という長い歴史を思う時、先輩諸姉の情熱とご尽力に敬意を表し、これから私達のすべきことは何か、会員で話し合い、思いを共有することが必要だと感じています。

記念講演会は、社会学者で認定NPO法人ウィメンズ･アクション・ネットワーク理事長の上野千鶴子さんをお迎えし、「これから女子の生きる道～ネオリベ改革とジェンダー～」と題して開催しました。会場は210名の参加者で満席となりました。上野さんは、実態調査に基づいた専門的な内容を、柔らかな語り口とユーモアでわかりやすくお話しされ、会場全体が魅了されました。働き方改革や女性の活躍推進が国の成長戦略とされる中で、これまでの日本の労働政策と女性の生き方等をまとめていただき、時を得た貴重なご講演となりました。その内容は、これからの私たちの活動にも参考になるものでしたので、その一部を要約してご紹介します。（講演録は70周年記念誌に掲載）

――国の女性活躍推進や男女共同参画の目的は、日本が競争に勝つためとか、これ以上強い国になるために女の力を動員しようということではないはず。女性が目指す「公正な社会」は「弱者に優しい社会」です。依存的な存在である弱者に誰よりも寄り添ってきたのは女性でした。そして、女性は、子どもや高齢者のそばに寄り添ったとき、自身も弱者になってしまいます。高齢化によって、誰もがいつか依存的な存在になっていきます。「弱者が弱者のままで尊重される社会を作る」というのが、女が社会に共同参画していく目的であるべきです。「自立」については、依存先の分散であり、誰か一人に深く依存していると感じずにすむ状態の事。また、一人でできないことには助けを求めることが大切。自分の人生を自分で決める、人生の主人公になる女の子、しかも弱者の傍らにいつもいる、そういう女の子と男の子を育ててほしい。そして、そういう若者たちを迎え入れるにふさわしい社会を用意することが私達の使命です。――

☞ JAUW誕生の翌年に早くも数支部が各地で結成されました。皆さまの支部のニュースもお知らせください。

## JAUW 新春のつどい

恒例の「JAUW 新春のつどい」を下記の通り開催致します。
第1部の国内奨学金贈呈式は、JAUWの公益事業の中で大切な事業の一つです。将来女性のリーダーとして活躍を期待される奨学生の希望と意欲あふれるスピーチは、いつも私たちに感動を与えてくれます。
第2部は華やいだ雰囲気の中、会食をしながら会員の皆様、そして奨学生の方々とも楽しく交流のひとときをごゆっくりお過ごしください。
多数のご参加をお待ち致します。

**日　時**　2019年1月12日（土）　11：00～14：30
**場　所**　新宿京王プラザホテル　南館4F 「扇の間」
　　新宿区西新宿2-2-1　　03-3344-0111（代表）
**プログラム**
　第１部　2018年度　国内奨学金贈呈式
　第２部　懇親会
**会　費**　10,000円
**申込先**　（一社）大学女性協会　本部事務所
　　Tel：03-3358-2882　　Fax：03-3358-2889
　　E-mail：jauw@jauw.org
**申込締切**　2018年12月17日
**振込締切**　2018年12月27日
**振込先**　三菱 UFJ 銀行四谷支店　普通預金：口座番号１０７７７７７
　　別口　一般社団法人 大学女性協会　理事　鷲見八重子

尚、キャンセルは3日前までとさせていただきます。
※収益事業委員会のバザーを致します。ご寄贈品も受付けています。ご協力をお願いします。

## 2018年度国際奨学生の来日と研究報告会

マレーシアからの奨学生ハズリニ･ディズヌン博士が9月28日に来日し、名古屋工業大学市川洋教授のもとで研究を開始いたしました。インドからの奨学生 KM スラビさんは10月19日に来日して、東北大学水藤寛教授のもとで研究を始めました。
奨学生2名の研究報告会を以下のように開催いたします。皆様のご出席をお願いいたします。　（国際奨学委員会）

**日　時**：2019年3月9日（土）午後1時から4時30分
**場　所**：市ヶ谷アルカディア
**会　費**：1000円（当日、申し受けます）
**申込み**：3月2日（土）までに JAUW 事務所まで

## 新入会員　理事会承認　2018年7月～10月

| | | |
|---|---|---|
| 仙台支部　宮原　育子 | 茨城支部　浅野　秀子 | 茨城支部　石井　順子 |
| 茨城支部　胸組　惠子 | 東京支部　中野眞佐子 | 東京支部　長谷川瑞穂 |
| 東京支部　植田奈穂美 | 東京支部　三木谷理香 | 神奈川支部　小合　忍 |
| 愛知支部　川崎　直子 | 京都支部　永田　璞子 | 京都支部　名倉　素子 |
| 京都支部　吉川　攝 | 神戸支部　小松満貴子 | 岡山支部　梶谷貴美子 |
| 岡山支部　藤田　京子 | 岡山支部　小竹　祐加 | 岡山支部　山下　美紀 |


丸大食品 心に残る贈り物

≪丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます≫
お歳暮･お中元時期のほか、記念品･新築祝･開店祝
御礼･内祝･快気祝･各種景品等ご利用下さい。
丸大食品株式会社　東日本特販課　　担当：橋本
〒135－0051　東京都江東区枝川2－23－2
TEL03（3647）3270　FAX03（3647）3274


## 第17回　自然科学講演会のお知らせ

「データと血流シミュレーションが拓く予測医療の最前線」
**講　師**　大島まり会員（第4回守田科学研究奨励賞受賞者）
　　東京大学大学院情報学環及び生産技術研究所教授
**日　時**　12月15日（土）15：00～17：00
**場　所**　お茶の水女子大学理学部3号館7階大講義室
**申し込み**　12月12日（水）までに JAUW 事務局へ

動脈硬化症による頸動脈の狭窄は、脳血管障害を引き起こす重篤な血管病変であり、重度な場合にはステント留置手術などの治療が施されます。近年、医用画像データと血流シミュレーションを融合することで、手術が脳内の血流に与える影響を患者ごとに予測することが可能になってきました。講演では、実際の症例に取り組んだ例をふれながら、医用データと血流シミュレーションを組み合わせることで拡がる予測医療の最前線について紹介します。
　　科学研究奨励委員会（東京支部・お茶の水女子大学共催）

## 東日本大震災災害地支援事業　ラストコンサート

**日　時**：2019年2月11日（月・祝）
　　15：00開演（14：30開場）
**会　場**：求道会館（文京区本郷6-20-5）
**演奏者**：Quartet Berlin-Tokyo
**曲　目**：バッハ・マタイ受難曲よりコラール：「我が心の切なる願い」
　　ベートーベン・弦楽四重奏曲第10番
　　シューベルト・弦楽四重奏曲第15番他
**入場料**：4,000円（前売り3,500円）

2011年9月から開始しました「東日本大震災災害地支援事業・高校生奨学金」は、本年度3月で終了となります。20名の奨学生の皆さんの将来の活躍を心から願い、国際的に活躍中の若きカルテットの演奏を楽しんでいただければ幸いです。これまでの皆様方のご支援を心より感謝申し上げます。　　東日本大震災災害地支援事業・特設委員会一同

## 観劇と催し物のお知らせ　収益事業委員会

**「文楽」於：国立小劇場**
**日　時**　12月8日（土）　17：00開演
・演目　鎌倉三代記・伊達娘恋緋鹿子
**歌舞伎「通し狂言」於：国立大劇場**
**日　時**　12月13日（木）　16：00開演
・演目　増補双級巴―石川五右衛門―
**「奉祝の雅楽―ご即位を祝して」於：サントリーホール**
**日　時**　2019年2月2日（土）　14：00開演
**＜大使館見学＞　スウェーデン大使館**
日・瑞外交関係樹立150周年
**日　時**　12月13日（木）　10：00～11：00
昼食　ホテルオークラ東京「カメリア」
参加費　4.500円　募集　25名
　☆観劇／催し物／岩波ホールの問い合わせは JAUW 事務所まで

## 理事会から

- 11月9日（金）当事務所に「日系4世受け入れについて」〈法務省〉と〈公益財団法人海外日系人協会：受け入れ担当団体〉の方々が説明と協力のお願いにお見えになりました。
- CSW63への参加支援者を長谷川舞さん（聖心女子大学3年生）に決定しました。
- 丸大食品のカタログを同封いたします。収益につながりますのでご協力をお願いいたします。


一般社団法人　大学女性協会
〒160－0017　東京都新宿区左門町11番地6－101
電　話　03－3358－2882　　ＦＡＸ　03－3358－2889
http://www.jauw.org　　E-mail：jauw@jauw.org
発行人　鷲見（すみ）　八重子　　編集責任者　穐田　信子
発行日　2018年11月26日